

AM/FMステレオチューナー

KT-1010F

取扱説明書

お買いあげいただきましてありがとうございました。

ご使用前にこの取扱説明書をよくお読みのうえ、正しくお使いください。

本機は日本国内専用モデルですので、外国で使用することはできません。

トリオ株式会社

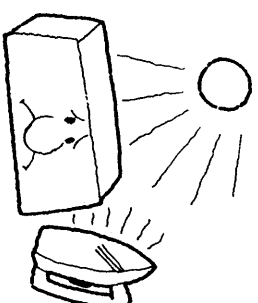
TRIO-KENWOOD CORPORATION

KENWOOD

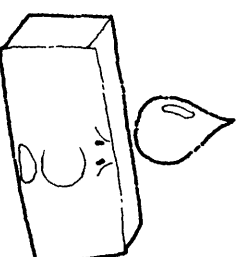
ご使用前の前に

設置上のご注意

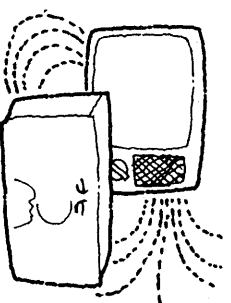
直射日光の当たる所、暖房器具など発熱物の近くはさけてください。



花瓶、化粧品など水の入ったものは、セットの上に置かないでください。また、湿気の多い所はさけてください。

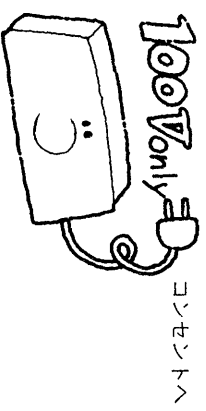


雑音をできるだけ少なくするために、テレビの近くや磁力の発生するものからは遠ざけてください。

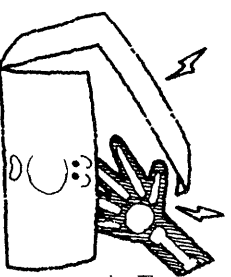


安全にお使いいただくために

本機は、交流 100V 専用です。クーラーなど 200V では使えません。



ケースなどをははずし、内部にふれることはさけてください。内部に手を入れると感電、故障の原因となります。必ず、内部に手を入れないでください。



内部には手をふれない

お買い上げいただき、ありがとうございます。
ご使用に際し、本機の性能を十分に発揮させるため、本説明書を最後までお読みいただき、正しい使いかたにより末永くご愛用ください。
なお、本製品は厳重な品質管理のもとに生産されておりますが、万一運搬中の事故などに伴い破損等の不具合がありましたら、お早めに購入店、または最寄りのトリオ各営業所、サービスセンターへお申しつけください。

目次

ご使用前に.....	2
定 格.....	3
接続のしかた.....	4
外部アンテナについて.....	5
各部の名称と動作説明.....	6
操作のしかた.....	7
故障と思われる症状ですが.....	8

アフターサービスについて

1. 保証書—この商品の保証書は別途添付しております。必ず所定事項の記入および記載内容をご確認いただき大切に保存してください。
 2. 保証期間—お買上げの日より**1年間**です。正常なご使用状態でこの期間内に万一故障を生じた場合には、保証書の記載内容によりお買上げの販売店またはトリオの営業所が**無料修理**いたします。
 3. 保証期間経過後の修理についてはお買上げの販売店またはトリオの営業所にご相談ください。修理によって機能が維持できる場合にはお客様のご要望により**有料修理**いたします。
 4. 本機の**補修用性能部品の最低保有期間**は製造打ち切り後**8年間**です。性能部品とはその製品の機能を維持するために必要な部品です。
 5. なおアフターサービスについて、ご不明な点はお買上げの販売店またはトリオの営業所にご遠慮なくご相談ください。
- ※ ダンボール箱は、アフターサービスや引越の際大切な機器を保護するために、是非保管しご利用ください。

付属品について

本機には、下記の部品が付属されていますのでご確認ください。

T型FMアンテナ.....	1本
両ピンコード.....	1本
75Ω/300Ωアンテナアダプター.....	1個
AMループレアアンテナ.....	1個

定 格

これらの定格およびチャイソンは、開発に伴い、予告なく変更になることがあります。

〔FM チューナー部〕

受信周波数範囲……………76MHz～90MHz

アンテナインピーダンス……………75 Ω 不平衡

感度 (IHF) 75 Ω ……………0.95 μV, 10.8dBf(DISTANCE)

10 μV, 31.2dBf(DIRECT)

SN比 50dB 感度 MONO ……………1.8 μV, 16.2dBf(DISTANCE)

18 μV, 36.3dBf(DIRECT)

STEREO ……………24 μV, 38.8dBf(DISTANCE)

240 μV, 58.8dBf(DIRECT)

高調波ひずみ率(100%変調) WIDE NARROW

MONO 100Hz……………0.008%

1kHz……………0.0055%

50Hz～10kHz……………0.02%

100Hz……………0.01%

1kHz……………0.0085%

50Hz～10kHz……………0.1%

SN比(100%変調) MONO ……………99dB(85dBf入力)

STEREO ……………91dB(85dBf入力)

キヤプチャーレシオ WIDE NARROW

実効選択度……………1.0dB 2.5dB

ステレオセレーション……………70dB 90dB

1kHz……………70dB 50dB

50Hz～10kHz……………50dB 40dB

15kHz……………40dB 36dB

周波数特性……………20Hz～15kHz, +0.5dB, -0.5dB

イメージ妨害比(84MHz)……………90dB

IF妨害比(84MHz)……………110dB

スプリアス妨害比(84MHz)……………100dB

AM 抑圧比……………65dB

サブキャリア抑圧比……………70dB

出力レベルおよび出力インピーダンス……………70dB

FM: 1 kHz, 100%変調 固定出力……………600mV, 3.3kΩ

〔AM チューナー部〕

受信周波数範囲……………531kHz～1602kHz

感度……………10 μV; 250 μV/m

SN比(30%変調, 1mV入力)……………52dB

高調波ひずみ率(1.000kHz)……………0.4%(WIDE)0.8%(NARROW)

イメージ妨害比(1.000kHz)……………40dB

IF妨害比(1.000kHz)……………50dB

選択度(IHF)……………25dB(WIDE)50dB(NARROW)

出力レベルおよびインピーダンス……………180mV, 3.3kΩ

400Hz, 30%変調……………180mV, 3.3kΩ

〔電源部・その他〕

電源電圧・電源周波数……………AC 100V, 50/60Hz

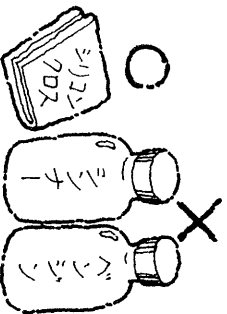
定格消費電力(電気用品取締法に基づく表示)……………14W

寸法……………幅 440×高さ 64×奥行 319(mm)

重量……………正味 3.5kg

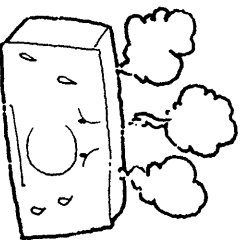
セットのお手入れ

前面パネル、ケースなどが汚れたときは、シリコンクロスかやわらかい布でからがきます。シンナー、ベンジンなどの使用は変色の原因になることがあります。



異常にお気づきの際は

種がでている、変な匂いがするなどのときは、電源スイッチをすばやくOFFにして電源コードを抜いてください。そのうえで速かに購入店または最寄りのトリオサービセンター、営業所へご連絡ください。



ステレオ音のエチケッ

良い音、楽しい音楽も、時と場所によっては気になるものです。隣り近所への配慮を十分いたしましょう。ステレオの音量は、あなたの心がけ次第で大きくも小さくもなります。

特に静かな夜間には、小さな音でも通りやすいものです。夜間の音楽鑑賞には、特に気を配りましょう。窓を閉めたり、ヘッドホンをご使用になるのも一つの方法です。お互いに心を配り、快い生活環境を守りましょう。

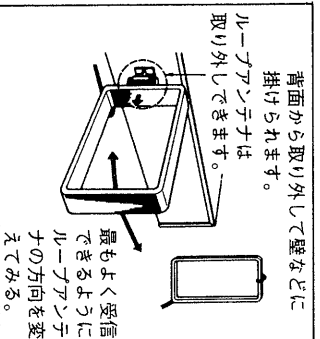
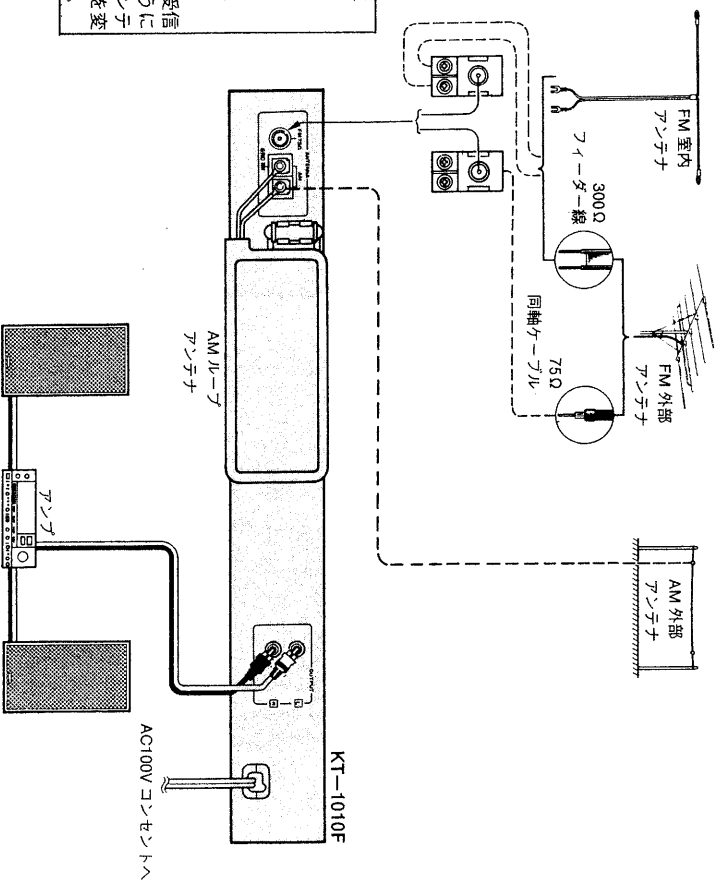
接続のしかた

アンテナを取付けましょう

T型 FM アンテナ： アンテナアダプターのネジターミナル部にT型アンテナのYラゲ部を接続し、FMアンテナ(FM ANTENNA)端子にアダプターを差込みます。

T型アンテナは FM 専用外部アンテナを設置するまでの間、一時的にご利用ください。

AMループアンテナ： ループアンテナのリード線のYラゲ部を AMアンテナ(AM ANTENNA)端子に接続し、アンテナホルダーにループアンテナを押し込みます。また、ループアンテナをセット外に固定したいときは、ホルダーから離し、壁などに固定してください。
ループアンテナのリード線が不足するときは、リード線を追加して受信状態のもっとも良い場所に設置してください。



アンテナに接続しましょう

本機の出カ(OUT PUT)端子とアンテナの入カ(TUNER)端子を、付属の両ピンコードで接続します。端子にはL(左)チャンネルとR(右)チャンネルがあります。必ず同じチャンネルにつないでください(上図参照)。

本機は、記憶したプリセット内容の保持のために、電源スイッチを切ってもマイクロコンピュータにわずかな電流を供給しています。したがって電源コードは、壁面コンセントかアンテナの非運動コンセントに接続してください。
十分な充電後は、電源コードを抜いても3日以上数日間はメモリーバックアップをしています。

AC電源の極性について

本機のAC電源コードの片側には、白線マークが施されています。当社の、他の白線マーク入りコードを使用した機器をご使用の際は、このマークの側を統一しますと音質向上の一助となります。
AC電源コンセントへの差込みは、白線マーク側をコンセント差込み口の短い方に合わせるのが一般的ですが、接続される機器によっても、ACラインの状態によっても同様ではありませんので、比較試験のうえ良い方をお選びください。

当社製品のAC電源コンセントの(●)印は、AC電源コードの白線マーク側と同じ極を示しています。
なお、従来通りに極性にとらわれず接続されても結構です。

外部アンテナについて

FM 外部アンテナ

チューナーが一番大切なのは希望の電波を確実に十分キャッチすることです。そのためにはFM専用外部アンテナを必ずご使用ください。電波が十分強くても、ビル谷間や山に囲まれた地域では反射波で音が歪んだり、ステレオのセパレーションが悪くなります。このようなどときはアンテナの指向性のするどい2素子位相差給電アンテナをご使用ください。

また、放送局から遠く電波が弱い地域では電界強度に応じて3素子、5素子、7素子のアンテナを選んでください。素子数が増せば利得が高くなり、指向性もよくなります。

アンテナとチューナーの接続

アンテナ端子にFMアンテナを接続するには、75Ω同軸ケーブルか300Ωワイヤー線を使います。本機の性能をフルに発揮させるためには、75Ω同軸ケーブル(3C-2Vか5C-2V)をおすすめします。

75Ω同軸ケーブルを使うとき

1. 付属の75Ω/300Ωアンテナアダプターのフタをあけます。(図2参照)。
2. 75Ω同軸ケーブルを、図3のように処理し、アダプターに取り付けます(図3参照)。
3. アダプターを本機背面のFM75Ωアンテナ端子に差込みます。

300Ωワイヤー線を使うとき

付属のアンテナアダプターのネジターミナル部に、外部アンテナからの300Ωワイヤー線を接続し、FM75Ωアンテナ端子に差込みます(アダプターには300Ω↔75Ωの変換器が入っています)(4ページ接続図参照)。また、300Ωワイヤー線の場合は、図3のリングを接続してください。リングが付いていないと感度が低下します。

FM専用外部アンテナをたてる時

FM雑音の中で、悩みの多いものにイグニッションノイズ(自動車のエンジンよりでる雑音)があります。この雑音をさけるために、アンテナを道路からできるだけ離れた所にたててください。

送信アンテナからごく近い所でFM外部アンテナをたてると、電波が強すぎて音がひずむことがあります。これは故障ではありません。アンテナを室内アンテナにかえるか、または、お近くのトリオ営業所にご相談ください。

AM 外部アンテナ

AM 外部アンテナ (リードアンテナ)

鉄筋住宅の場合などでルーニアアンテナを接続しても、受信状態が悪いときは、AMアンテナ端子にビニール被覆線を6~15m屋外にはっててください。このとき必ずルーニアアンテナも接続したままにしておきます(図4参照)。

アースの接続

アースは、アース(GND)端子につなぎます。アースはしなくとも放送受信はできますが、雑音除去と安全性などの点から接続されることをおすすめします。但し、ガス管には、絶対に接続しないでください。

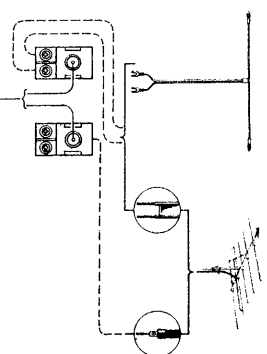
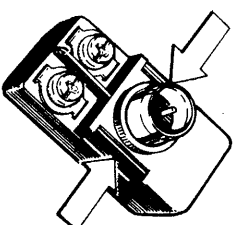


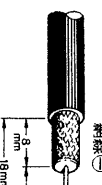
図1 FMアンテナの接続



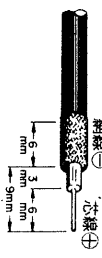
矢印の方向に両側から指で軽く押し、回転をはずし、手前にひけば、手であけられます。

1. 同軸ケーブルを図のように加工します。

5C-2Vの場合は外被をむいて芯線を出す。



3C-2Vの場合は外被をむいて芯線を外被に折りかえす。



2. 加工した同軸ケーブルを、下図のように付属の75Ω/300Ωアンテナアダプターに取り付けます。5C-2Vはピンすき間の広い部分に巻きつけます。3C-2Vはさらに狭い部分まで挿入して巻きつけます。同軸ケーブル接続時は、下図のリングをアダプターのおたの突起にはめかえてください。

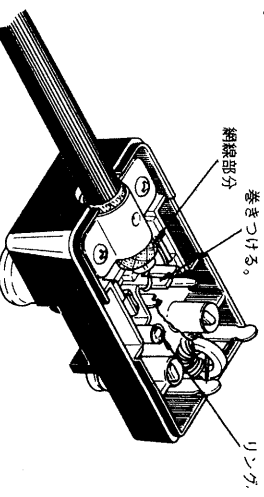


図3 付属のアダプターと同軸ケーブルの接続

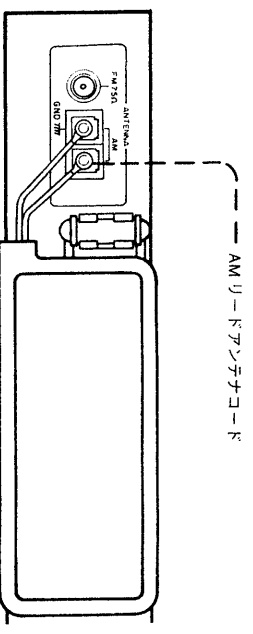
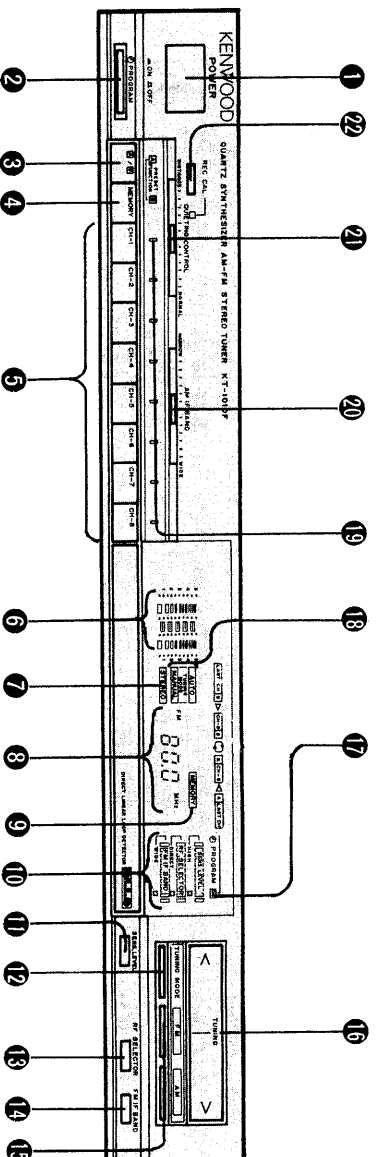


図4 AM リードアンテナの設置

各部の名称と動作説明



① 電源スイッチ (POWER)
 押すと電源が入り、再び押すと電源が切れます。

② プログラムスイッチ (PROGRAM)
 押すごとに ON、OFF が切り換わります。

プリセットの A 側を受信していた場合、電源を OFF にして再び ON にしますと、A 側の最後に受信していた局をまず呼び出します。その後は、電源を OFF、ON することにより A 側 CH.8 → B 側 CH.8 → A 側 CH.8 → B 側 CH.8 というように、繰り返して呼び出していきます。

プリセットの B 側を受信していた場合には、B 側の最後に受信していた局を呼び出した後は、B 側 CH.8 → A 側 CH.8 というように、A 側を受信していたときは反対の順序で呼び出しを繰り返します。プログラムタイマーとの組み合わせで、異なった局の留守録音が可能です。

③ プリセットプログラムクションスイッチ
 このスイッチで A 側 (8 局)、B 側 (8 局) を切換えます。

④ メモリースイッチ (MEMORY)
 このスイッチを押すとメモリーインジケータが点灯し、プリセットメニューへのスイッチへのメモリースタンバイ状態になります。

⑤ プリセットメニューインジケータ
 A 側、B 側それぞれスイッチに 1 局ずつ FM 局又は AM 局を記憶させることができます。スイッチを押すとプリセットメニューインジケータが点灯し、周波数カウンタにこのスイッチに記憶させた周波数が表示されます。A 側 8 局、B 側 8 局の合計 16 局プリセット可能です。

⑥ チューニングゲイナルインジケータ
 シタルメーター (タテ方向) とチューニングゲーター (ヨコ方向) の組合せによって、同調前後のシタルの強さと同調の推移を視覚的にわかりやすく把握することができます。同調に近づくと従って左右どちらかが赤色で点灯し、同時にシタルの強さに従って点灯するポイント数が増えます。同調時には、中心の上下方向にシタルの強さに応じたポイント数が、白色で点灯します。離調するときは、逆の推移をたどって、赤色のポイント数が減少していきます。

ご注意：

1. AM 放送受信時は、放送局に同調しますと中央の白のインジケータが点灯します。
 2. 電界が不十分なときは、左側と右側のステータが 4 ポイント以下の表示しかしなかつたり左右非対称に表示されることがあります。

⑦ ステレオインジケータ (STEREO)
 FM ステレオ放送を受信すると点灯します。

⑧ 周波数ディスプレイ
 AM または FM の周波数をデジタル表示します。選局時にはこの表示を見ながら正確な同調をとってください。

⑨ メモリーインジケータ
 メモリースイッチを押すと、約 10 秒間点灯します。点灯している間に任意のプリセットメニュースイッチを押してください。

⑩ 各種インジケータ

FM IF BAND：FM IF バンドが WIDE 時に点灯。
RF SELECTOR：RF セレクターが DIRECT 時に点灯。
SENS. LEVEL：センシティブレベルが HIGH 側の時に点灯。

⑪ センシティブレベルスイッチ (SENS. LEVEL)
 オート受信時にオートストップするレベルを HIGH、LOW に切り換えるためのスイッチです。夜間など、受信状態がよく、オートストップする局が多すぎる場合には LOW 側にします。

⑫ チューニングモードスイッチ (TUNING MODE)
 押すごとにオート選局状態になります。
AUTO 点灯：オート選局状態になります。
MANUAL 点灯：マニュアル選局状態になります。

⑬ RF セレクタースイッチ (RF SELECTOR) (FM 時に動作します)
 放送局の増加に伴い、RF 相互変調や混変調ひずみなどが重要視されますが、これらの対策として設けられたのがこのスイッチです。お住いの電波条件に合わせて、更に良好な受信をするために FM IF バンド切換えスイッチと併用されることをおすすめします。

遠距離の放送局を受信する場合は、このスイッチを押さなくても構いません。受信状態が上がり、SN 比の良い状態で受信できます。状態とvari、RF 相互変調妨害、混変調妨害などが少なく、最良の音質で受信することができます。

⑭ FM IF バンド切換えスイッチ (FM IF BAND)
 FM 放送を受信する際、中間周波数の信号の通過帯域を WIDE と NARROW に切換えるためのスイッチです。混信のない地域ではこのスイッチを押して FM IF バンドインジケータを点灯させておきます。低ひずみでより音質のよい放送を受信することができます。混信がある場合にはこのスイッチを OFF にして NARROW の状態にします。選択度特性がよくなり、混信のない受信ができます。

⑮ セレクタースイッチ
 FM：FM 放送を受信するときに押します。
 AM：AM 放送を受信するときに押します。

⑯ 選局キー (TUNING)
 AM、FM 放送を選局するキーです。AUTO モードのときに、このキーの上部を軽く押しすると周波数が上昇し、< 部を押しすると下降します。
 MANUAL モードのときは、シタルインジケータをみながら、このキーを押し続けてご希望の放送局の周波数を受信します。

⑰ プログラムスイッチが ON のとき点灯します。
⑱ チューニングモードインジケータ
 チューニングモードスイッチによる受信状態を **AUTO**、**MANUAL** の点灯で表示します。
⑲ プリセットメニューインジケータ
 任意の番号のプリセットメニュースイッチを押せば、それぞれの番号が点灯します。
⑳ AM IF バンドつまみ (AM IF BAND)
 AM 放送を受信する際、復調帯域を広帯域 (WIDE) から狭帯域 (NARROW) まで連続的に可変できます。

WIDE：混信のない地域での通常の位置です。低ひずみで、より音質のよい放送を受信することができます。
NARROW：プリエンフーズされた放送局を受信する場合や、混信がある場合の位置です。選択度特性がよくなり、混信のない受信ができます。

㉑ クワイエットコントロールつまみ (QUIETING CONTROL)
 ステレオ放送の S/N 比改善のため左・右チャンネルのゲイン量をこのスイッチで調節します。速い局など SN 比のわるい局を受信する場合は DISTANCE 側にすると SN 比のよい状態で聞くことができます。(左端では MONO 受信となります。) 通常は NORMAL の位置で受信します。

㉒ レコーダインジケータキャリブレーションスイッチ (REC CAL)
 FM 放送を録音するとき、チューニングの録音レベルを設定するのに使うスイッチです。レベル設定が済んだとき、録音をしなくても構いません。スイッチを必ず OFF にしてください。スイッチが ON 状態のときに、右の REC CAL インジケータが点灯します。

操作のしかた

オート選局のしかた

- ①アンテナの入力セレクターがTUNERになっていることを確かめてください。
- ②電源スイッチ(POWER)を押します。周波数ディスプレイが点灯し、ラストチャンネル*が表示されます。
- ③セレクタディスプレイのFMまたは、AMを押します。周波数ディスプレイがFMまたは、AM表示され、ラストチャンネルが表示されます。
- ④チューニングモードスイッチのAUTOを点灯させます。オート選局の動作が開始されます。
- ⑤周波数の高い局を選ぶときは、選局キー(TUNING)の上部を軽く押します。低い局のときには下部を押します。周波数を自動的に走査して、放送局のある周波数で停止します。シグナルインジケータ(SIGNAL)が点灯し、放送が受信されます。
- ⑥音量と音質調整はアンテナで行ってください。

※ラストチャンネル

メモリーバックアップがされている場合は、電源を切る寸前の周波数が記憶されます。この周波数をラストチャンネル周波数と呼び、再度電源を入れると、この周波数が表示されます。

マニュアル選局のしかた

オート選局では選局できない電波の弱い局、または放送局の周波数がわかっている局を受信したいときは、マニュアル選局をしてください。

- ①“オート選局のしかた”の①～③項を行います。
- ②チューニングモードスイッチ(TUNING MODE)でチューニングモードインジケータのMANUALを点灯させます。
- ③選局キー(TUNING)を調節して、希望する放送局を受信します。このキーを押し続けると周波数は連続的に変わります。
- ④音量と音質調整はアンテナで行ってください。

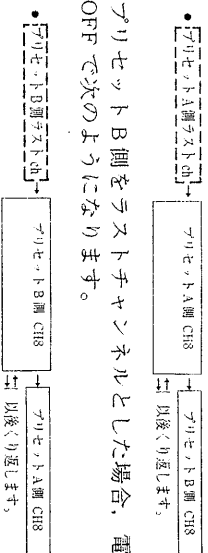
プリセットメモリーのしかた

- ①放送局を受信します。
- ②メモリースイッチ(MEMORY)を押します。
→メモリーインジケータ(MEMORY)が点灯(約10秒)。
- ③メモリーインジケータが点灯している間は任意のプリセットスイッチ(1～8)を押します。
→メモリーインジケータが消え、プリセットスイッチインジケータが点灯し記憶完了。
プリセットスイッチ1～8のうちにお好みの放送局の周波数をメモリーすれば、いつでも好きな局を選局できます。

プログラム受信のしかた

プログラムタイマーと本機を接続して電源を切る直前に受信していた局(A側あるいはB側)とA側1つ、B側1つの合計3局を受信することができます。これは3局を“記録”するときに変便利です。FM, AM両局が可能です。本機のプログラム機能は、次のようになっています。

プリセットA側をラストチャンネルとした場合、電源ON-OFFで次のようになります。



1. 本機に電源が通電するように、プログラムタイマーを操作します。
2. 本機の電源を入れ受信状態にします。
3. プログラムスイッチをOFF状態にします(プログラムインジケータが消灯していることを確認してください)。
4. 最初に受信したい局がプリセットA側の場合、2番目に受信したい局をプリセットA側のCH:8にプリセットしてください。①
5. 3番目に受信したい局の場合は、プリセットB側のCH:8にプリセットしてください。②の場合には、プリセットA側のCH:8にプリセットしてください。
6. 最初に受信したい局を選局し、受信してください。このとき、プリセットA側、B側に注意してください。
7. プログラムスイッチをON状態にしてください(プログラムインジケータが点灯)。
8. 本機へ3度通電するようにプログラムタイマーをセットしてください。
9. 最初に本機へ通電されたときに、6で受信した局が受信されます。2度目に通電されたときは、4でプリセットされた局が、3度目には5でプリセットした局が受信されます。4度目以降は、CH:8のA側B側をくりかえし受信します。

ご注意:

プログラム受信の操作をしないときは、プログラムインジケータが消灯していることを確認してください。プログラムインジケータが点灯していますと、電源を入れるたびにA側、またはB側のCH:8に記憶されている局が受信されます。

レコーディングキャリブレーションについて

FM放送を良質な音で録音するには、適切な録音レベルの設定が必要です。FM放送は、常に出力レベルが変動するため録音レベルの設定が困難です。本機では、レコーディングキャリブレーションスイッチをONにしますと、約400Hzの信号(FM50%変調に相当するレベル)が連続的にOUTPUT端子に出てきます。この出力レベルで、テープデッキのVUメーターを-6dB、または50%に合わせておけば適正レベルの音量が得られます。

また、録音テープは多少のオーバー入力は許容しますが、録音レベルを高めに設定したい場合は、プログラムソースで経験的に適正録音レベルを決定し、そのレベルをこの基準レベル信号を用いて確認しておきます。次回以降からの録音レベル設定に用いると便利です。

故障と思われる症状ですが

調子が悪いと故障と考えがちですが、サービスに依頼する前に症状に合わせて一度チェックしてみてください。

症 状	原 因	処 置
一般的なこと		
音が出ない	<ul style="list-style-type: none"> アンテナをつないでいない アンペアと接続されていない ●放送局を受信していない 	<ul style="list-style-type: none"> ●AM用はルーブリックアンテナ FM用は外部アンテナ またはT型アンテナ ●両ピンコードでアンペアと接続する ●放送局の周波数に合わせる
シグナルインジケータの点灯が不安定	アンテナの接続が不確実	断線、接触不良のチェック
スイッチを操作すると、一時音がとぎれる	スイッチの切換えによるショックノイズ防止のため一時的にミュージックインゲをにかけている	故障ではありません

FM受信時に起りやすいこと		
ザーツという連続音が放送とともに入る	アンテナに入ってくる電波が弱く入力不足となっている	FMアンテナの見直し、また放送局から遠距離にあるところではFM専用外部アンテナ(5〜8素子)が必要です
バリバリ、ガリガリという雑音が入る	自動車などのイグニッションノイズ	アンテナを道路から離して設置し、接続コードは300Ωファイダー線よりも75Ω同軸ケーブルを使用する
ステレオ放送のはずなのにステレオインジケータがつかずモノラルになっている	●電波が弱いためチューナー側で強制的にモノラルにしている	●FM専用外部アンテナを屋外に設置し、電波を十分にキャッチする
ステレオ放送でステレオインジケータがついているのに分離が悪い	クワイテイングコントロールつまみが"DISTANCE"(左側)になっている	NORMAL(右側)にする

AM受信時に起りやすいこと		
ジーツという連続音が入る。特に夜間大きい	電気器具(蛍光灯など)による雑音や空電という雑音がアンテナから入る	屋外にAMリードアンテナを設置し、アースを取れば減少しますが、完全にとり除くことはむずかしい
放送に合わせたときだけブーンというハム(同調ハム)が入る	<ul style="list-style-type: none"> ●電源コードの差し込み方向でできることがある ●地区的にできることがある 	<ul style="list-style-type: none"> ●電源コードの差し込みをかえてみる ●交流電源では特定の局にハムがでるのはやむをえません
チーツ、シーツという高い連続音が入り、大きくなる	<ul style="list-style-type: none"> ●テレビから出る雑音 ●AM放送局同士の干渉による9kHzのビート音 	<ul style="list-style-type: none"> ●テレビを消してみる(近所のテレビの影響を受けていることもある) ●AM放送方式の欠点で取り除けません

シンセサイザーチューナーで起りやすいこと		
プリセットステーションスイッチを押しても受信しない	放送局の周波数をメモリーしていない	放送局の周波数を確認、確実にメモリーする
プリセットステーションスイッチにメモリーしたのにメモリーが消えている	電源コードの接続が無いためバックアップが完全でない	電源コードは必ず壁面コンセントなど常に切れないコンセントに接続する

アンテナサービスのお問合せは、
購入店または最寄りの当社サービスセンター
営業所をご利用ください。
商品に関するその他のお問合せは、
お客様相談室をご利用ください。
お電話(03)486-5515

KENWOOD

トリオ株式会社

東京都渋谷区渋谷2-17-5(シオノギ渋谷ビル)〒150
電話(03)486-5511